

北里大学医療検査学科における就職支援のための 面接対策講座の取り組み

佐藤 隆 司^{*1§} 鉢村 和 男^{*1} 長 塩 亮^{*1} 中 村 正 樹^{*1}
 前 花 祥 太 郎^{*1} 黒 崎 祥 史^{*1} 井 本 明 美^{*1} 緒 形 雅 則^{*2}
 太 田 悦 朗^{*1} 古 田 玲 子^{*1} 湯 本 真 弓^{*3} 片 桐 真 人^{*1}

要 旨 就職活動における採用試験ではすべての医療機関が面接試験を実施している。つまり、就職活動を成功させるためには、面接試験対策が重要かつ不可欠である。しかし、面接対策をどのように行うべきかわからず、しっかり対策ができていない学生もいる。そこで面接対策講座では模擬面接を実施し、面接官や観察者からアドバイスや評価を受けることで面接対策の必要性を認識させた。また、本講座前後にアンケートを実施し、面接に対する意識調査を行った。その結果、89.4%の学生が面接を苦手と感じ、70.2%の学生が模擬面接に対し自己評価が低く、面接に不慣れで対策が不十分な学生が多くいることがわかった。一方、本講座の模擬面接に対し「他者からの評価を受け改善点を知れて良かった」、「実践することの大切さを知ることができた」などの前向きな意見が多くあった。本講座は学生に面接対策の必要性を伝える上で効果的な取り組みであると考えられた。

キーワード 面接対策、模擬面接、就職支援、アンケート

はじめに

北里大学医療衛生学部医療検査学科では年に3回就職ガイダンスを開催し、就職活動の手順の説明、卒業生による就職活動のアドバイス、大学病院臨床検査部技師長による臨床検査技師として就職するための心得など、様々な指導を実施している。また、本学科は北里大学就職センターと連携して、2019年度から学科独自の履歴書の書き方講座、小論文対策講座、面接対策講座を開設し、

学生の就職活動を支援している。

就職活動を行う上で避けて通れないものに面接試験が存在する。東京都の「採用と人権」発行資料において、選考方法として「新規卒者の選考は、書類選考のみによることなく必ず面接を行ってください」との記載がある¹⁾。また、病院就職の採用試験状況を調査した報告では、すべての病院施設が面接試験を実施していた²⁾。このことから面接試験の対策は就職支援の中で重要な位置を占めていることがわかる。面接試験では面接官が履

^{*1} 北里大学 医療衛生学部 医療検査学科 § takashis@kitasato-u.ac.jp

^{*2} 同 医療衛生学部 基礎医学部門

^{*3} 同 就職センター

履歴に書いてある事柄や将来行いたいことなどを詳しく聞き、面接に対する姿勢やその学生の人柄、能力、適性、就職に対する本気度などを評価している。しかし、面接に不慣れな学生、苦手意識を持っている学生、準備不足な学生は本来の実力を発揮することができないことが考えられる。そのため、本学科の面接対策講座では、模擬面接を行い人前で話す訓練をすること、他者の面接を観察・評価し自身の面接内容にフィードバックすること、面接対策の必要性を認識させることを目的として行った。今回、4年生の面接対策講座の前後にアンケートを実施し、面接に対する意識や本講座が与える効果を分析したので報告する。

I. 対象および方法

面接対策講座は2019年6月3日に行い、自主的に参加を希望した医療検査学科4年生を対象とした。本講座の1週間前に、「自己PR」もしくは「臨床検査技師を目指した理由」のどちらかを模擬面接時に質問するので考えておくこと、と伝えた。参加学生に対して本講座前後にアンケートを実施した。模擬面接のグループ分けでは1グループあたり参加学生を4～5名に振り分け、1名が被面接者、残りの学生は観察者とし、そこに面接官役の教員を1名配置した。模擬面接は1対1形式で行い、面接時間は被面接者1人あたり約5分とした。被面接者は自己紹介を行い、着席、模擬面接を行なった。その際、被面接者に対し面接官は評価シートの項目(印象、表現力、志望度、応答、人物等)をチェックし、観察者はアドバイスシートの項目(印象、良かった点、改善点等)をチェックした。本講座の様子と使用した評価シートおよびアドバイスシートを図1に示した。面接後、被面接者は評価シート及びアドバイスシートを受け取り、振り返りを約3分間行った。全員の模擬面接終了後、参加者全員による意見交換を行った。

II. 結果

本講座は医療検査学科4年生103名中47名(45.6%)が参加した。アンケートの回収率は100%であった。

1. 模擬面接前のアンケート結果

本講座前にアンケートを実施し、結果は図2に示した。問1『過去に面接試験(模擬面接を含む)を受けたことはありますか』は、72.3%の学生が「1回以上ある」と回答した。問2『面接についてどのように感じていますか』では、10.6%の学生が「どちらかという得意」と回答し、89.4%の学生が「どちらかという苦手」、「苦手である」と回答した。問3『問2で面接は「どちらかという苦手」、「苦手である」と回答した方、その理由を2つ選んで下さい』では、「緊張しやすい」が23.9%、「考えをまとめるのが苦手」が22.7%、「想定外の質問に対処するのが苦手」が20.5%、「コミュニケーションに自信がない」が17.1%であった。

2. 模擬面接後のアンケート結果

本講座後にアンケートを実施し、結果は図3に示した。問4『本講座の全体の印象は』では、88.9%の学生が「満足」、「おおむね満足」と回答し、「やや不満」、「不満」と回答した学生はいなかった。問5『自分の模擬面接を評価して下さい』では、「どちらかという良くできた」が29.8%であったが、「どちらかという良くできなかった」、「良くできなかった」が70.2%であった。問6『問5で「どちらかという良くできなかった」、「良くできなかった」を回答した方、その理由を記載して下さい』では、「緊張してしまった」、「事前に話をまとめていなかったため、うまく答えられなかった」、「受け答えが難しかった」、「表情が硬く笑顔で話せなかった」、「言葉遣いが不十分だと思った」、「落ち着きが足らなかった」などの意見があった。問7『面接対策講座を受けた感想(コメント)があれば記載して下さい』では、大きく分けて2つの事柄についての記載があった。1つ目が評価シートやアドバイスシートの感想で「他者からの評価を受け取り自分では気づかなかった点を知れて良かった」、「客観的に見てもらうことで良かったところ、直すべきところを伝えてもらって良かった」、「改善点が多く見つかった」などの意見があった。2つ目が模擬面接の感想で「実践することの大切さを知ることができた」、「実際に行ってみると練習することが大事だとわかった」、

[面接対策講座の様子]



[面接官から被面接者へ(評価シート)]

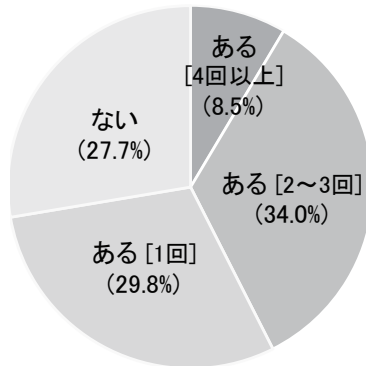
① 印象1	入退室・姿勢、表情(笑顔、目線等)	A+	A	B	B-	C
② 印象2	言葉遣い、声の大きさ、声のトーン(調子)	A+	A	B	B-	C
③ 表現力	伝え方、自分の言葉での表現、話の展開・まとめ等	A+	A	B	B-	C
④ 志望度	志望職種に対する熱意・具体性、志望理由の強さ	A+	A	B	B-	C
⑤ 応答	不意な質問への応答、応答的的確性・論理性等	A+	A	B	B-	C
⑥ 人物	人柄、性格、積極性、協調性、誠実さ、責任感等	A+	A	B	B-	C
(指導内容)* 良かった点、気になった点(癖、考え方等)、今後の改善点等があれば記載してください。						

[観察者から被面接者へ(アドバイスシート)]

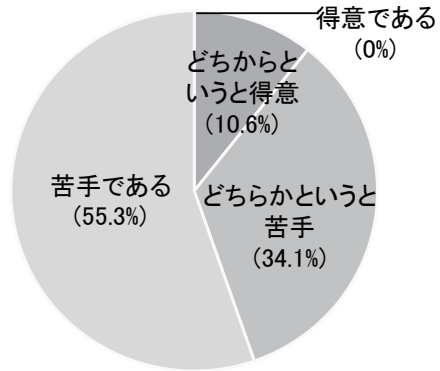
あなたの印象は(表情、笑顔、明るさ、姿勢の良さ、目線、話し方など)
印象を受けたポイントは(どのようなことでその印象を受けたか)
良かった点(客観的に)
改善した方が良かった点(客観的に)

図1 本講座の様子と評価シートおよびアドバイスシート

問1 過去に面接試験(模擬面接を含む)を受けたことはありますか？



問2 面接についてどのように感じていますか？



問3 問2で面接は「どちらかという苦手」、「苦手」と回答した方、その理由を2つ選んで下さい。

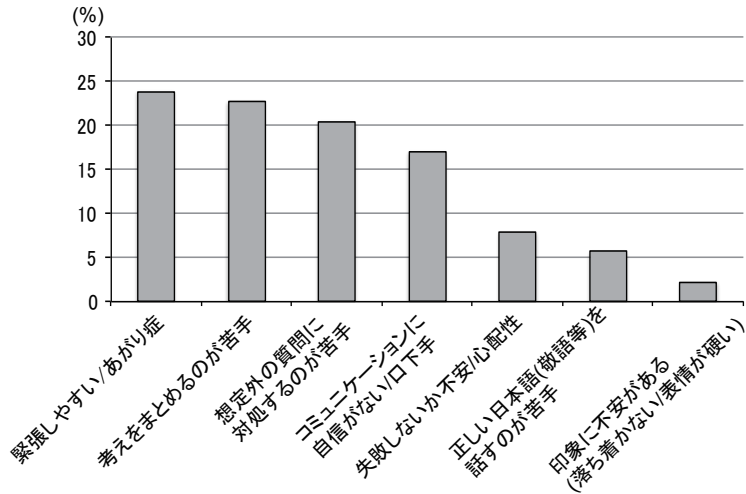


図2 講座前のアンケート結果

「今後、模擬面接を多く受け面接に慣れたい」、「面接練習の第一歩を踏めて良かった」、「人前で面接することが嫌で参加を悩んだが参加して良かった」、「とても実りある時間だった」、「少し自信がついた」などの意見があった。

3. 模擬面接前後のアンケート結果の比較

講座前アンケート問2『面接についてどのように感じていますか』と講座後アンケート問5『自分の模擬面接を評価して下さい』を比較した。その結果、問2で「面接はどちらかという得意」が10.6%であったが、問5で「模擬面接はどちらか

という良くできた」が29.8%であり、講座前と比べ講座後で自己高評価の割合が上がった。また、一部の学生では問2で「苦手である」と回答したが問5で「どちらかという良くできた」と回答した。このように講座前(問2)と比べ講座後(問5)で自己評価が上昇した学生は57.5%であった。

III. 考 察

医療機関の求人は6月から8月に多いとの報告がある²⁾³⁾。本講座の開催時期は就職活動に対して本格的に準備を行う時期の6月に設定したこ

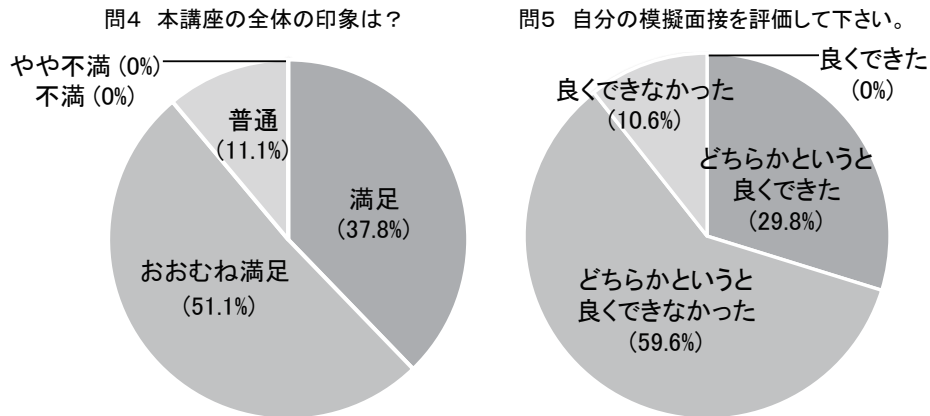


図3 講座後のアンケート結果

とは適切だったと思われる。しかし、参加者数は医療検査学科4年生の45.6%と約半数であった。本講座の模擬面接で「他者(友人)が自分の面接を観察する」ことに対し、見られたくない気持ちがあり面接対策講座に参加することを躊躇していた学生がいた。本講座は自主参加であるが、面接対策の重要性を事前にしっかり伝え、今後は参加者を増やしていきたい。

講座前アンケートの問1『過去に面接試験を受けたことはありますか』から、受けたことがある学生が72.3%と多いことがわかった。この質問では模擬面接も含めていたため、本学に設置されている就職センターで模擬面接を受けていた学生も含まれていると推測される。面接を受けたことがある学生が多かったが、事前アンケートの問2『面接についてどのように感じていますか』や問3『問2の回答の理由』から、学生は面接に対して苦手意識や不安要素を強く持っていることがわかった。「大学生の就職意識に関する調査研究」の報告では、就職活動に関する不安項目として、「就職試験のための知識(91.0%)」に次いで「面接試験の対応(89.0%)」が挙げられている⁴⁾。面接に対する苦手意識や不安要素を取り除くことができれば、本来の実力を発揮できるものと示唆される。

講座後アンケートの問4『本講座の全体の印象は』から、本講座の印象が良かったため、参加した学生にとっては有意義な講座であったと推測さ

れる。一方、問5『自分の模擬面接を評価して下さい』や問6『問5の回答の理由』から、面接に不慣れで対策が不十分な学生が多くいることがわかった。株式会社ディスコが公表する「キャリアタス就活2019 学生モニター調査結果」によると、「ここまでの就職活動で後悔していること」という質問に関して「自己分析」が57.5%と1位になり、面接試験対策は31.5%となっている⁵⁾。また、自己分析をしっかり行うことが自信を持って面接試験に臨める要因になるとの報告がある⁶⁾。自己分析の機会として、履歴書の作成がある。履歴書における質問は志望動機や自己PRなどであり、面接でも履歴書と類似の応答を学生に求められることが多い。履歴書の作成時、多方面から自分を見つめ、そして就職希望先の情報を多く得て十分に準備することは面接試験での好印象、高評価に繋がると思われる。また、コミュニケーションスキルが高い学生は多くの情報を収集でき自分の考えや興味を深めることができるとの報告がある⁶⁾。このことから、他者とのコミュニケーションを積極的に取ることは、自己理解、面接対策にも役立つ。つまり、就職活動が始まる4年生からコミュニケーションスキルを意識するのではなく、低学年の時期からコミュニケーションスキルを意識することで自然と自己理解を深めることができる。就職活動は4年生だけの活動ではなく、大学生全員にとって切り離せない存在であると

考えられる。

アンケート問2と問5の比較から、本講座前では面接に対して苦手意識があったが、模擬面接ではうまく行えた学生がいたことがわかった。実際、面接後に「少し自信がついた」とコメントした学生もいた。これらのことから、もともと多くの学生は面接に不慣れなため自信がないことが推察される。模擬面接を実践することにより学生が自身の面接対策の状況を把握できるため、模擬面接を受ける機会を多く設けて学生の苦手意識を減らすことが重要と考える。

本講座に対する学生からの感想やコメントでは多くの前向きな意見が得られ、学生に面接対策の必要性を伝えることができたと考えられる。また、本講座の「学生が学生を評価する」という試みは、面接官側の視点を理解することにも役立つ可能性がある。さらに、他者の面接を観察することで、自分の面接の受け答えや姿勢にも参考になるとともに、就職活動に対するやる気の向上にも繋がる可能性がある。本講座の最後に参加学生に対し「本講座をきっかけにして、今回もらったアドバイスや評価から自己分析や面接対策の準備を行い、積極的に模擬面接を受け実践形式の場数を踏むこと」と助言した。

一方、多くの就職活動経験者が4ヶ月以上の活動期間を長く感じ、望ましい活動期間も4ヶ月未満と回答している報告がある⁷⁾。4年生は就職活動に加え、国家試験、卒業試験、卒業研究、臨床実習などがあり、ストレスを感じる学生がいる。また、周囲の学生と就職活動の進行状況を比較して不安を感じる学生もいる。そのため、教員が学生の就職活動の状況を把握し、精神面を含めた就職支援に関わることも重要である。本講座では、教員が面接官役として関わることで学生の面接への取り組み状況を確認することもできた。本講座は学科全体として学生の就職活動を支援することに役立つと考えられた。

IV. 結 語

面接対策講座は学生に模擬面接の必要性を認識

させ、面接に対する意識改革を促すことに効果的な取り組みであった。また、学生アンケートから学生が面接試験に対してどのような意識を持っているかを把握することができた。医療機関の就職活動が本格化する前に学生自身が面接試験での改善点を見つけ出し、自己分析をきちんと行わせることが必要であると感じた。加えて面接試験には臨床検査技師にとって必須なコミュニケーション能力、臨機応変に対応する能力、自己学習能力などが大きく関わるため、本講座以外においても個々の人間力を高めさせることが必要である。今後も学科全体で学生への就職支援の一環として面接対策講座を継続し、学生の円滑な就職活動へと繋げていけるよう取り組んでいきたい。

文 献

- 1) 採用と人権（明るい職場を目指して）第4章 公正な採用選考をすすめるために．東京都 TOKYO はたらくネット，2017.
<https://www.hataraku.metro.tokyo.lg.jp/sodan/siryo/saiyou-jinken/index.html>
- 2) 本間 達，沢辺元司，戸塚 実，副島友莉恵，大川龍之介．就職支援のための求人票データの分析．臨床検査学教育 2016; 8: 198-202.
- 3) 山内可南子，千葉 満，吉岡治彦，武尾照子，渡邊 純，丹藤雄介，その他．弘前大学検査技術科学専攻における過去11年の求人情報．臨床検査学教育 2020; 12: 1-6.
- 4) 大脇錠一，脇田弘久，小見山隆行，伊藤万知子，新井亨，大久保八重．大学生の就職意識に関する調査研究．流通研究 2009; 15: 41-68.
- 5) NEWS RELEASE: キャリタス就活 2019 学生モニター調査結果 (2018年9月発行)．株式会社ディスコ，2018.
https://www.disc.co.jp/press_release/6350/
- 6) 北見由奈，森 和代．大学生の就職活動ストレスおよび精神的健康とソーシャルスキルとの関連性の検討．ストレス科学研究 2010; 25: 37-45.
- 7) 松尾寛子．大学生の就職活動期間への感じ方に対する活動時期と活動量の効果についての研究．京都大学学生総合支援センター紀要 2019; 48: 1-10.